

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1472500287
法人名	特定非営利活動法人 グループホーム花梨
事業所名	NPO法人 グループホーム花梨
訪問調査日	平成 19 年 11 月 29 日
評価確定日	平成 20 年 1 月 17 日
評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月17日

【評価実施概要】

事業所番号	1472500287
法人名	特定非営利活動法人 グループホーム花梨
事業所名	NPO法人 グループホーム花梨
所在地	神奈川県逗子市山の根3-20-10 (電話) 046-871-2253

評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会		
所在地	神奈川県横浜市神奈川区沢渡4-2		
訪問調査日	平成19年11月29日	評価確定日	平成20年1月17日

【情報提供票より】(平成19年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	10 人	常勤	4 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 6.1 人

(2) 建物概要

建物構造	木造モルタル 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300 円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	6 名	男性	0 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.5 歳	最低	77 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三壁脳神経クリニック、デンタルサポート
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR逗子駅から徒歩20分の緑豊かな住宅地の中にある木造2階建ての建物で、周りの景観と違和感がなく、内部はバリアフリーで、清潔感がある。常勤職員・非常勤職員の区別なく参加する自主勉強会を毎月開催し、職員間で情報の共有化や、チームケアに反映させている。地域の子ども会との連携をとっており、子ども達との交流を積極的に行っている。利用者一人ひとりの状態を観察して、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、外食、買い物、散歩など利用者の意向により、個別に対応している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果は、家族・職員に伝えと共に、玄関に掲示している。また、前回の外部評価では指摘事項はなかったが、サービスを見直す機会と捉え、さらなる質の向上に努めている。 運営者である管理者から職員に、サービス評価の意義や目的を伝え、全職員で自己評価に取り組んだ。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議を4ヶ月に1回、市の方針により参加メンバーは、市介護保険課長、民生委員、家族会会長、運営者、計画作成担当者で開催し、会議ではホームの現状を報告している。市より、開催頻度を増やすよう話を受けて、参加メンバーと検討をしているところである。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族等が訪問しやすい雰囲気づくりに努め、来訪時に声をかけ家族等の意見・要望を引き出すようにしている。また、家族会時に家族同士で話しやすいように、職員は席を外して意見を言いやすい環境をつくっている。意見・要望があったときには、全職員に周知し、話し合い、サービスの向上に活かしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、地域の子ども会との交流をしている。夏祭りには、おみこしがホームの玄関前まで来てくれたり、ハロウィンやクリスマスには多くの子ども達の訪問があり、利用者と共に楽しんでいる。また、自治会主催の盆踊りには浴衣を着て出かけた。り、どんど焼きに参加するなどして、相互に交流をはかっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム独自の理念として、「利用者の人権を尊重する・利用者のQOLの向上・地域福祉の拠点となる」を掲げ、職員は日々のサービス提供を利用者一人ひとりにあわせ、柔軟に支援を行っている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念について、運営者である管理者より日々の申し送り時や会議等で話し合い、職員間で共有しているほか、玄関に掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の子ども会との交流がある。夏祭りには、おみこしが玄関前まで来てくれたり、ハロウィンやクリスマスには、多くの子供達の訪問があり利用者と共に楽しんでいる。また、自治会主催の盆踊りには浴衣を着て出かけたり、どんど焼きにも参加して、地域の人々と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全職員で取り組み、最終的に運営者がまとめた。前回の評価結果は、家族・職員に伝えと共に、玄関に掲示している。前回の評価結果で指摘事項はなかったが、サービスを見直す機会と捉え、さらなる質の向上に努めている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	4ヶ月に1回、参加メンバーは逗子市の方針で、介護保険課長・民生委員・家族会会長・運営者・計画作成担当者で開催し、ホームの現状を報告している。市より、開催頻度を増やすよう話があり、メンバーと検討中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所の介護保険担当窓口には、電話で相談したり、折を見て訪問するなどしている。また、市が主催する研修会には、必ず参加して、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日々の暮らしぶりは、家族の来訪時に話したり、電話で報告している。毎月の報告としては、利用料等の請求書を送付している。また、介護計画の作成時のほか、3～4ヶ月に1回「花梨だより」を発行し、家族に近況報告をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それを運営に反映させている	家族等が訪問しやすい雰囲気づくりに努め、来訪時に声をかけ家族等の意見・要望等を引き出すようにしている。また、家族会の時など家族同士の交流が進むよう、職員等は席を外して話しやすい環境をつくっている。家族から意見・要望等があった時には、全職員に周知し話し合い、サービスの向上に活かしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	顔馴染みの職員による支援を心がけている。この1年間の職員の異動はないが、やむを得ず退職する場合は、利用者のダメージを防ぐよう職員間で配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、抽選の場合が多くて参加できないこともあるので、毎月1回、自主勉強会を開き、全職員が順番に口腔ケア・嚥下・食中毒などテーマを決めて発表し、職員間で情報の共有化をはかり、チームケアに反映している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国認知症グループホーム協会、神奈川県認知症高齢者グループホーム協議会に加入し、情報の共有、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新規入居者を受け入れる場合には、運営者が利用希望者の自宅を訪問したり、ホームの行事に参加してもらったり、食事のみの体験や体験入居をしてもらったりと、他の利用者や場の雰囲気に徐々に馴染んでもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の個々の状態をよく観察して、「ほめてあげられることは何か」、「ADLが低下しても出来ることは何か」を把握し支援している。料理の下ごしらえや配膳、下膳、洗濯物やおしぼりたたみ、掃除、花の水やりなど、利用者から職員が教わる場面を多くもてるように支援している。また、残存能力を活かした活動に取り組んでいる。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握については、アセスメントにより趣味や生活歴を把握し、家族から意向や希望を確認している。また、日々の支援の中で、利用者個々の希望を把握するように努めており、外食、買い物、散歩などを個別に対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回開催するカンファレンスで、利用者の要望や家族の意見等とともに、日々の支援の中での全職員の気づきや意見を取り入れて介護計画を作成している。カンファレンスに出席できない職員は、気づきや意見等をメモや伝言などで伝えるようにしている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月ごとに見直している。状態に変化が生じた場合は、その都度見直しを行っている。いずれの場合も、本人、家族等の意見も取り入れて見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院や外出の送迎など必要な支援を行っている。また、市に届け出て、ショートステイを受けられる体制になっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診方法については入居時に、本人、家族と話し合い決めている。協力医療機関(脳神経内科)の往診は月に2回ある。また、主治医による24時間対応の体制を確保しており、急変時などに対応してもらえるようになっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化や終末期に向けた対応について、本人・家族に説明している。本人・家族・医療機関と連携を取りながら支援している。今までに看取りを行った事例もある。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取扱いについて全職員が把握している。運営者より職員に、年長者である利用者の一人ひとりの尊厳を大事にすることを常に伝えている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、身支度や食事などは利用者個々のペースを大切にしながらも、規則正しい生活でメリハリをつけるよう支援している。買い物や散歩などは一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。ADLの低下が進んでいる利用者が寝たきりの生活にならないように、様子をみながら車椅子やソファで過ごしてもらうなどの支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者と料理の本を見ながら好き嫌い、彩りや栄養のバランス等を考慮して決めている。利用者と職員が調理、盛り付け、片付けや食事と一緒にいる。また、介助が必要な利用者には、なるべく残存能力を活かせるように支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があれば毎日入浴でき、夕食後に入浴している。また、身体の状況に応じて清拭で対応することもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう支援をし、職員は感謝の言葉を伝えるようにしている。掃除、洗濯物たたみ、料理の下ごしらえや配膳、片付けなどの場面をつくっている。ドライブで新江ノ島水族館や八景島などへ外出しているほか、個別に買い物や外食、散歩に出かけることもある。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、食材を買いに出かけたり、散歩をしている。また、玄関前にベンチがあり外気浴もできるようになっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、利用者一人ひとりの状況を常に把握するようにし、日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしができるように支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自治会の消防団と合同の避難訓練や消防署の協力を得て訓練を行っている。また、その他に職員と利用者だけの訓練も行っている。備蓄や防災用品を整備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取については、職員が常に心がけており、特に必要な時には記録をしている。食事摂取量については、専門職によるチェックは受けていないが、職員が栄養バランスに配慮し、かかりつけ医に利用者の体重等の身体状況と、食事摂取量の確認を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前には、ポインセチアやクリスマスの飾りつけがされており、2階のリビングのソファやテーブル、椅子などは家庭的なもので、落ち着ける場所になっている。また、所々に生花が活けられていたり居心地よく過ごせる環境を創出している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはそれぞれの馴染みのものが置かれ、居心地よく暮らせるように配慮されている。居室の入口のネームプレートは、手作りの刺繍が掛けられている。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。


チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようにご注意ください。

事業所名	NPO法人 グループホーム花梨
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	神奈川県逗子市山の根
記入者名 (管理者)	川戸 聡美
記入日	平成 19年 10月 25日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		まず理事長(管理者)が考案
	作製している しかし、さらにわかりやすく、かつ具体化している物に変更するよう検討中である。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		理事長の考える理念を会議にて職員全員で検討する予定。 明確化していく。
	現在、検討中であるため、実践しているとは言えず。これまでの物は誰でも見えるところにかけている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		言葉だけでなく、入居者の方々が地域において、当たり前 の生活を送っていけるよう援助し、その生活そのものをみて理解を得られるよう活動している。
	これまでの理念については、地域での行事参加、家族会、ケアプラン等の機会に言動で示してきている。		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		地域よりさらに狭い隣近所と相談したり、されたりの関係もあり。
	通りに面した場所がないため、“立ち寄り”ことは難しいのが現状ではあるが、行事等で集まった物をいただいたり(持ってきてくれる)、入居者も含め道で会うと声をかけていただいている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		左記に示したように様々な行事参加、協力は続けていく予定
	入居者とともに地域の行事等に積極的に参加、協力している。 ・盆踊り、夏祭り、避難訓練、どんど焼き、コーラス参加、敬老会、ハロウィン、クリスマス等		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実際に取り組んだ事例はないが、去年からの地域推進会議において民生委員からの相談にアドバイス等はしている		現場の対応で精一杯であるのが現状であるが、推進委員会議を機に地域高齢者の抱えている問題に触れ、手助けできることが在れば協力する必要があることを実感している。 今後の新たな課題と考える。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者は外部評価により改善すべき点について話し合っているが、具体的な取り組みはできていない。 評価自体は今まで問題なし		今までの外部評価は満点をいただいているのだが、職員全員が理解できていない問題について、説明、指導が必要と感じている。 今回はその場を設ける予定
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議において、報告は行っているがサービス向上に生かせるようなご意見は、今のところいただけていない		会議の進め方、内容について検討したい、意見をさせていただけるような会議にしていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム側から行くことはある		これからも、電話でなく直接話す機会は作り対。また、いつでも協力していく姿勢はある。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者の肩が成年後見制を利用されているため、知識がないわけではないが、全ての職員が理解しているとは思えず、また、改めて学ぶ機会を設けていない		勉強等で職員全てが理解できるよう取り組みたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケース会議の歳、折に触れ話をするkと尾はあるが、皆で学び合う機会はなかった		同上

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の歳には必ず行っている</p>		<p>契約時だけでなく、日常的に(面会など)ご家族とは言葉を交わしている。</p> <p>ケアプラン提示の歳にも説明、理解していただいている。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情窓口は設けているが、利用者自身からの苦情などの打田へは今までない。</p>		<p>利用者のご家族からの意見などは会議のさいに伝え、話し合うこととしている。また、家族会において、ご家族の皆さんへも伝えている。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>必要に応じ、電話だけでなく、お会いした上で伝えている。</p>		<p>これからも、日常的なこととして、行っていくが、パート職員でもきちんと説明できるようにしたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会、推進委員会などで話していただくことはある。そこで出た意見は職員全員に伝えている。</p>		<p>これからも左記のような方法で行っていくが、外部者へ表せる機会の検討が必要。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営者、管理者も現場で他の職員と同じように働いており、会議にはいつも参加している。</p>		<p>これからも左記のような方法と鳴るであろうと思われるが、全ての職員が意見の言える雰囲気作りが必要。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>ターミナルケアや入所間もない時期にはできる限り人員配置ができるよう職員みんなできつとめてきた</p>		<p>これからも左記のように努めていきたいが、余剰人員の確保が難しい現状がある。話し合い工夫が必要。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>単独のホームのため、移動はないが離職希望者に対しては、管理者と話す機会を設けている。</p>		<p>これからも左記のような方法で行っていくが、日頃から職員へのケアも検討したい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	育成計画は立てられていない。けんゆうを設ける機会はあるが、働きながらのトレーニングは体制としてはない		余剰人員のない現状の中、どのようなスキルアップ方法が考えられるのか検討したい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はまれにそのような場がある物の、職員には設けられていない。現実的に時間、人員ともに余裕はない。		運営者は市町村と協同してそのような機会を作れるような働きかけができるのではないかと。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	グループホームの職員は、労働基準法で定められている休憩時間を取ることは難しいとされている中、当ホームは法定時間を守っている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員ここの現況の発表の場を、月一回設けている。職員の希望高給が取れるよう配慮している		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に面接を数回重ねて聴く機会を作っている		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	同上		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>事例として”まだ入所の必要がないのでは？”と提案、アドバイスをしたことがあり、最初のご相談より一年を過ぎ入所した方がいる。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>体験入所や行事の参加、食事のみの体験など様々な方法で工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>ゆったりとした時間をともに過ごしたり、放す時間をなるべく作るようにしている。 話の中から職員が学んだり、食事の場面で教えて貰う機会はある</p>		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>折に触れ、働く側の正直な気持ちを放すことがあるほど。 ホーム側としては喜怒哀楽を隠さずに伝えられるように努めている</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>つとめているが、ご家族の関係はここ複雑で、ホーム側が入り込めない事例もあるのが現実</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご本人が大切にしている習い事の継続や、なじみの方との交流は様々な説明の上で支援している。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>レベルの差があり、全ての方に対して行えているわけではないが、利用者同士が助け合えるような場面を作るようにしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	そのような事例なし		必要とされるご家族がある場合は、関係を続けることに対し受けいられると思われる
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの作成時、会議の時だけでなく朝の申し送りや日時王の中でその都度職員間で話、対応している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前や後にご家族や事業者からの聞き取りは必ず行い、入所後にもご本人との会話から聞き取り、職員間の情報把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	全員参加の会議において、各職員の意見情報を共有し合い、そのつど、対応を判断している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	チームで作成した計画を提示した際、ご家族の意見以降も取り入れ、サイン捺印していただいている。また、医療的なことに関わる問題には必ず主治医に相談している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しだけでなく、必要に応じプランの立て直し、ご家族に報告している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日時間に沿ったご本人の様子は細かくケース記録として残している		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現場の対応が中心となっており、“多機能制”と言われるような支援ができていないとは言えない。		事務所における“多機能制”についてなにができてい、なにが必要か、まず検討の必要がある
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ご本人の意向や必要性に応じて支援しているが、たの機関と協力していると言えるかは疑問		ご利用者のお知り合いの方がボランティアとして、送迎、付き添いをしていただいている
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	何年か前に、一度そのような動きをしたのだが(デイサービス利用)、利用料などの問題が生じ、プランは成立しなかった。その後は左記のようなケースはしていない。		状況が可能であれば、活用することも考えられる
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	していない		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度の往診だけでなく、必要に応じ24時間対応の主治医があり、いつでも指示がもらえる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医ではないが、細かいことも報告し、いつでも相談でき、アドバイス、指示をもらえる関係をきづいている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	市町村の保健士必要があれば、相談アドバイスはもらうが、日常的な物ではない。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	以前、骨折により入院された方の場合、早期退院でホームの生活リハビリに向け、情報支援、相談、アドバイス等連携した。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時の認知症の重傷度により、全員の方にはしていないが、入所時より定期的に、また、必要時に医師も交えて話し合い、共有している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	”できること・できないこと”を見極め、医療的なことも含め、ご家族に納得していただいた上で、支援してきた		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	介護記録(基本情報)、サマリーなど作製している。また電話での情報提供も同時に行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	職員個々につとめている。また、守秘義務の徹底を理事長からたびたび指示されている。	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	職員個々が工夫した声かけ、介助に努めている。ただし認知症の重症度により、難しい場面が増えている。	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	認知症の重症度により異なるが、なるべく自己決定により過ごしていただけるように支援している。(自己決定できる方は限られている)	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	望む店に入っていないが、昔ながらの美容院より、今時の綺麗なところが良いとの意見があり、店を選択している。	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	限られた方にはなっているが、行っている	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	薬の関係でお酒は難しいが、飲み物、おやつ等は状況、好みをふまえて提供している	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>自力の方、介助が必要な方、おむつ対応の方、日中はトイレ、夜間はオムツ・・・など個々のパターンにあわせている。失禁が少なくなってくると布パンツに替えている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>当ホームは夕食の後に入浴しているため、希望の時間にしていただくことはない。(ご利用者も昼より夜の方が良い、当たり前だとの意見あり)</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>夜間の睡眠状態、日中の過ごし方により、個々に入所時間は異なる。自己決定できる方は本人に任せ就寝時間としている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>外出の好きな方、家事の好きな方、音楽の好きな方、それぞれ得意なことを喜んでいただける過ごし方を支援している。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現在の入所者の方では、金銭管理のできる方はいないが、支払いの場で渡すような方法はとっている。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>実際、外への希望する方は少ないが、希望がある時は買い物、散歩、外食等その日の人員に応じて対応している</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>定期的にバスハイク、ドライブへ行っている</p>		<p>今後本人の希望するところへもお連れしたい(お墓参りなど)</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい方、手紙を書ける方には希望に添って対応している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	皆さん電話を入れてから来てくださるため、受け入れ体制はいつでも整えている		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員とは言い切れないが、定期的に運営者より説明があり、拘束をしないケアに取り組んでいる。点滴などどうしても必要な状態のさいには、ご家族の納得、了承していただいている		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員とは言い切れないが、運営者より説明があり鍵をかけないケアにとりくんでいる		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に心がけている		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の状態に応じ、支援している。危険なことは別として、物をなくすような支援はしていない。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的に勉強会をし、学んでいる。 また、いつでも手に取れる場所にマニュアルファイルが置いてある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に勉強会にて万でいるが、全ての職員が対応できると冷えず		今後も訓練を続け、みんなが対応できるようにしていきたい
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に、地域の方との訓練をしたりホームにおいてもたびたび行っている		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアプラン時、面会時などには放しているし、家族会の場でもリスクについては、たびたび放している		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	9時、16時バイタルチェックを行っている。バイタル値はすぐに職員に知らせている。変化に気付いた時にも必ず伝達するようにしている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての職員が把握しているとは言えないが、薬の変更、中止などがある時には全ての職員に知らせるため、口述や申し送りノートを活用して言う		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘による影響は常に放している。水分は充分取っていただくように、お茶を出す回数は細かく分け(最低8回)、日常生活動作により体を動かすよう努めている		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後マンツーマン対応によりケアしている。歯間ブラシ、スポンジも活用しその方にあった対応を行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、形態、糖尿病など個々に合わせた支援をしている		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	定期的に取り決めの確認をしたり、勉強会などで題材として扱うことがある		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、まな板、急須、湯飲み、コップなど消毒している。また、冷凍物の扱いなど定期的に確認している		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花を植えたりイベントにまつわる飾り付けなどしている		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除はほぼ毎日している。 皆さんの普段いる場所は直接の光も入らず柔らかい明るさになっている。 台所からの音や臭いは家庭的であり、皆さんから見える場所に花も飾られている		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースに一人になるところは難しく、快適な場所であるのかは判断しかねる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物が落ち着かれる方にはそのように居室を整えている なじみのもので混乱される方もいるため、個々に合わせた対応をしている		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者に合わせた温度調節をしている。 各所にある換気扇は付けてある		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いすの方や、身体の硬直等がある方にとっては、十分な設備とは言えず		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ホームの方針として目印になるような物はなく、普通の家にはないため、敢えてしていない。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花を植えたり、ベランダに干し物ができているようにはなっているが、楽しみとなる活動は特にしていない		ハード面的な問題は改善は難しいと思われるが、散歩のついでに草花をみて会話にはイカしている。

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

会所より6年経過し、振り返ってみて、特別なことは支援できず、ごく普通の生活を支えてきたと思う。

(規則正しい生活、家事全般の支援、排便コントロール、買い物外出、夜の入浴など)

認知症の方が安心して生活を送れることを最大の目的としています。

この普通の生活を支援することが一番難しく特にアピールしたい点は見つかりません。

利用者の表情を感じていただきたいと思います。